

岩手県における HTLV-1 の母子感染調査について

伊藤忠一*, 岩手県成人T細胞白血病専門委員会

要約：妊婦について3年間にわたりHTLV-1抗体スクリーニングを実施し2.3%の陽性率をえた。HTLV-1抗体陽性妊婦より出産した子およびその同胞についてHTLV-1抗体を経時的に追跡した結果、人工栄養群における陽性率4.2%、母乳群では30%と大きな差を認めた。

アンケートによる調査で、1986年から1990年までの5年間のATL発症数は102例であった。その他ATL関連病態が9例報告された。

見出し語：HTLV-1抗体、妊婦、母子感染、母乳、人工栄養、ATL

はじめに

岩手県におけるHTLV-1の母子間感染の3年間にわたる血清疫学的調査結果およびATLの発症状況についてのアンケート調査結果を述べる。

研究方法

抗体はPA法とEIA法を併用してスクリーニングし、両法とも陽性反応を呈した場合を陽性と判定した。両法不一致の場合にはwestern blot法あるいは間接蛍光抗体法にて確認した。なおPA法の陽性基準は16以上の抗体価が繰り返し検査を実施して観察された場合、またEIA法の陽性基準はカットオフ値が3.0以上を示すか1.0と3.0の間の場合には抑制試験を行い抑制率が50

%以上の場合とした。

いずれにおいても主治医の口述による説明およびパンフレットによって納得合意を得た上で実施し、その後の哺乳指導もふくめてトラブルの起こった症例は経験されなかった。また陽性妊婦に対する人工栄養勧奨に関してはほとんどの妊婦において同意がえられた。

児の経過追跡は原則的に本研究予防対策班のプロトコールに従った。

結果および考察

(1) 妊婦におけるHTLV-1抗体陽性率：3年間の調査結果のまとめを表1に示す。対象はHTLV-1浸淫地区と考えられている太平洋沿岸地域にある4機関病院

* 岩手医科大学臨床検査医学 (Dept. of Clin. Pathol., Iwate Medical University)

に来院した妊婦3682名である。各病院、各年度で陽性に入りが認められるものの陽性妊婦の合計は84名(2.3%)であった。この値は岩手県における献血者の平均陽性率と同じ値であった。各医療機関における陽性率はその地域の献血者における陽性率と平行していた。

(2) 児の追跡調査：

HTLV-1抗体陽性妊婦より出産した児の総数123名について経時的にHTLV-1抗体検査を実施した結果について述べる。123名中1年以上追跡しえた症例は人工栄養児が48名、母乳ないしは混合栄養児が30名であった。後者においてはHTLV

-1抗体陽性妊婦より出産した児の同胞に対するretrospectiveな検索であったため検査は大部分1~2回にとどまり、正確に出産時より追跡したものはない。表2は哺乳群別児の抗体陽性率である。人工栄養群と母乳群との間には明らかな陽性率の差が認められた。なお母乳群では6/16(38%)、混合栄養群では3/14(21%)の陽性率であった。

追跡期間が12ヵ月に至っていないものも含めて人工栄養児93例のHTLV-1抗体の推移を各月齢毎にみると臍帯血および1ヵ月で100%であった陽性率は3ヵ月で94%、6ヵ月53%、11ヵ月で19%と減少した。2ヵ月以降も陽性にとどまった2例はいずれも経過中陰性までには到らなかったが一旦低下した抗体価が9ヵ月頃より再び上昇し始め、それぞれ18ヵ月および30ヵ月に至っても高力価のHTLV-1抗体を保有する症例であり、母子間感染が成立したものと考

えられる。移行抗体のほとんどが12ヵ月以内に消失した。

なお母乳栄養群については妊婦の抗体価が高いほど、また授乳期間が長い程母子間感染の成立しやすい傾向が観察された。

表1 妊婦のHTLV-1抗体陽性率

年度 病院	1988年度 陽性数/検査数	1989年度 陽性数/検査数	1990年度 陽性数/検査数	計	献血者 陽性率
A	7/190 (3.7%)	10/289 (3.5%)	9/233 (3.9%)	26/712 (3.7%)	4.8%
B	10/229 (4.4%)	8/463 (1.7%)	2/373 (0.5%)	20/1,065 (1.9%)	2.7%
C	3/149 (2.0%)	14/415 (3.4%)	8/313 (2.6%)	25/877 (2.9%)	3.4%
D	2/91 (2.2%)	9/830 (1.1%)		11/921 (1.2%)	2.5%
その他	2/107 (1.9%)			2/107 (1.9%)	
計	24/766 (3.1%)	41/1,997 (2.1%)	19/919 (2.1%)	84/3,682 (2.3%)	2.3%

表2 哺乳群別HTLV-1抗体陽性率

哺乳群	N	平均観察期間 (月)	陽性数(率)
母乳混合栄養群	30	5.8	9(30%)
人工栄養群	48	2.7	2(4.2%)

(3) 成人T細胞白血病の発症に関するアンケート調査：岩手県にある33病院を対象としてATLに関するアンケートを行なった。1986年から1990年までの5年間でATLと診断された症例数は102例(年間20.4症例)で急性型が64.9%を占めていた。居住地、出身地で見るとHTLV-1の浸淫地区と考えられている三陸沿岸部の患者が63.3%であった。この他ATL関連病態(HAM)が9例報告された。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:妊婦について3年間にわたりHTLV-1抗体スクリーニングを実施し2.3%の陽性率をえた。HTLV-1抗体陽性妊婦より出産した子およびその同胞についてHTLV-1抗体を経時的に追跡した結果、人工栄養群における陽性率4.2%、母乳群では30%と大きな差を認めた。アンケートによる調査で、1986年から1990年までの5年間のATL発症数は102例であった。その他ATL関連病態が9例報告された。